



落語家  
**桂歌助さん**  
Katsura Utasuke

1962年、新潟県十日町市生まれ。横浜市港南区在住。東京理科大学卒業。在学中の1985年、桂歌丸に入門し、歌児となる。1986年、前座になる。1990年、ニツ目に昇進、歌助に改名。1999年、真打に昇進。古典落語を中心に活動、各所で高座をつとめる。老人ホームでの落語会など、地域活動にも力を注ぐ。よみうりカルチャー横浜ほか、県内を中心に落語教室を行い、落語の裾野を広げている。著書に『師匠 歌丸 背中を追いかけて』(イースト・プレス)。

公式サイト <https://utasuke.com/>

は、先代桂枝太郎師匠に弟子入りした後、師匠が亡くなり、歌丸の弟子になりましたから、私が初の直弟子ということになります。

### ◆ 厳しさの陰に愛情あり

師匠は、自分にも弟子にも、作法や芸に厳しい人でした。寄席の世界でどう振舞えばいいか、かばんを持ちをしながら師匠の姿を見て教わることが多かったです。ちなみに師匠からほめられたことはありません。「叱る人こそ味方と思え」が師匠の口癖でした。

前座見習いの頃、師匠の後について道を歩いていたところ、交差点で師匠が信号機の色を尋ねました。「赤です」と答えると、「あれは青だね」と言うではありませんか。「はい、青です」と応じたところ、「では、お前が先に渡っておくれ」と言ったんです。交通量の多い場所でどうしたものかと躊躇している

横浜が生んだ落語界のレジェンド、桂歌丸さん。初の直弟子の桂歌助さんは、弟子入りを機に横浜に移り住んだ。以来35年、芸のみならず、地元への想いも受け継ぎ、師匠の背中を追い続けている。

と、「そういう時は『あたしはかばん持ちですから、師匠、お先に』って言うんだよ」と。落語の世界は師匠の言うことが絶対ですが、無茶な話には機転を利かせなさいということだったんだでしょうね。

落語の芸は師匠から口移しで教わります。不器用な弟子だったと思いますが、師匠は「こうやった方が面白いよ」「こうやった方がいいよ」と、根気よく事細かに教えてくれました。生活面でも「前座のうちは食えないだろう」と、アパートの家賃と食費を出してくれて。そこまで面倒を見てくれる師匠はなかなかいないと思います。

### ◆ 嘸家の醍醐味

落語は一人で話しますから、持ち時間が15分ならその間ずっと、お客様は私の話に耳を傾けてくれます。こんなことは普段はめったにありませんよね。こちらもいかにお客さんを自分の世界に引き込むか、一対一の真剣勝負です。そして、笑ってもらえた時の快感といったらありません。一度でも場内のお客さんを笑わせたなら、もう落語家は辞められませんね(笑)。修業時代は辛いこともたくさんありましたが、雪国育ちで辛抱強いのが幸いました。

入門して14年で真打に。ほかの落語家がやっていないことをやってみようと、昇進直後に東海道五十三次の宿場町を歩き、全ての宿場で寄席を行いました。訪れる先の歴史や名物、その地にゆかりのある人物などを盛り込んだ落語を作り披露しましたね。それがドラマ『水戸黄門』出演のきっかけになりました。その後には、東海道制定400周年を記念して、再び東海道を歩きました。

### ◆ 現代にも通じる落語の世界

コロナが流行る前は1日1席を目標に、年間300席ほどこなしていました。お呼びがかかるればどこへでも出かけます。一人でも多く

のお客さんを笑わせるために、芸を磨き続ける。師匠に育ててもらった恩を返すにはそれしかありません。

江戸時代から続く落語が、なぜ現代にも残っているのか。先輩方の努力はもちろんですが、落語が親子や夫婦、ご近所づきあいなど、今と変わらぬ人間関係を描いているからだと思うのです。単に笑わせるだけではなく、人の情や人生の機微をも伝えてくれる。落語は、人々が生きている限り、永遠にすたれることはないと信じています。

### ◆ 横浜への想いを受け継いで

横浜で暮らして35年になります。最初は師匠の家に顔を出しやすいように真金町に住み、結婚してからは上大岡暮らしです。港南区は小高い丘がいくつもある、富士山がよく見えるんです。その見え方が場所ごとに違っていて、港南区の自慢の眺めだと思います。

横浜は開国の歴史があるように日本の最先端を行こうとしている街。それでながら、中心部から外れたところにはのどかな風景や人情、歴史がたくさん残っています。神奈川宿、保土ヶ谷宿、戸塚宿と宿場も3つあります。高座に上がる時には、その土地の歴史や伝承をできるだけ取り入れるのですが、横浜はネタに事欠きません。

師匠は地域活動にも熱心でした。私も師匠がやっていた老人ホームでの落語会を、三番弟子の歌若と共に続けています。尊敬する師匠の芸だけでなく、横浜への想いも受け継いでいくつもりです。

#### 第4回桂歌丸一門会

歌丸祥月命日に弟子達が集う

7月2日(金)14時開演 横浜・関内ホール 小ホール  
木戸銭(前売り):3000円(2500円)  
出演:桂歌春・桂歌助・桂歌若・桂歌藏・桂枝太郎  
チケット・問合せ:☎090(3243)8146 桂歌丸一門会事務局

#### 桂歌助独演会

8月11日(水)19時開演 横浜にぎわい座  
木戸銭:3200円(指定席) ※7月1日より発売  
問合せ:☎045(231)2525 横浜にぎわい座

### ◆ 教師志望が嘶家に

歌丸師匠が亡くなり3年になります。落語と横浜を愛した師匠をこの街の皆さんにいつまでも覚えていていただきたいと、毎年、祥月命日の7月2日に、弟子5人で一門会を開いています。今年は関内ホールでやります。

私は新潟の十日町で生まれ育ち、高校時代は野球部で甲子園を目指していました。県予選はベスト8でしたが、教師になり甲子園を目指そうと、東京理科大学に進みました。

私が師匠に弟子入りしたのは大学3年の時。生徒の前でわかりやすく話すコツを学ぼうと落語を聞いたり覚えていたりしているうちに、嘶家になりたいという思いが止められなくなっていました。真金町の師匠の家に二ヶ月あまり通い続けてやっと入門。兄弟子の歌春師匠

## 下肢静脈瘤は早期の発見が大切です

### 足にこのような症状はありませんか?

- ✓ 足の皮膚のボコボコとカユミ
- ✓ こむら返りで夜中に目が覚める
- ✓ 足が重い・だるい・つる
- ✓ 足の血管がボコボコ浮いている
- ✓ 足の血管の膨らみと痛み
- ✓ 膝から下の皮膚が硬く黒ずんでいる

上記の症状がある方は下肢の血管状態の悪化、もしくは下肢静脈瘤の可能性がありますので、**静脈瘤検査**を受けられることをおすすめします。



### 無料 静脈瘤検査

無料静脈瘤検査は  
保険外検査  
6/5(土)、6/9(水)、6/12(土)  
6/16(水)、6/19(土)、6/23(水)  
6/26(土)、6/30(水)

- 超音波(エコー)による足の血管チェック
- 下肢静脈瘤 ●血管年齢測定

※無料静脈瘤検査は電話予約制です。お電話の際に、無料静脈瘤検査を希望の旨、必ずお伝えください。

- 新型コロナウイルス  
感染症防止対策を  
実施しています
- 検温実施
- マスク着用
- 消毒の徹底
- 換気

足の静脈瘤クリニック 横浜院

神奈川県横浜市西区北幸2-5-22 福井第2ビル6階 横浜駅南9番出口 徒歩2分

☎045-620-9860

診療時間	月	火	水	木	金	土	日祝
9時~12時	○	○	○	×	○	○	×
13時~17時	○	○	○	×	○	○	×

※診察の際は、健康保険証をお持ちください。※当日予約も可能です。

院長  
新藤貴雄  
足の静脈瘤クリニック 横浜院

